

# 2022年度 事業計画 及び 収支予算書

## I 2022年度 事業計画

新型コロナウイルスが世界中で爆発的な感染を引き起こして2年が経過し、我々を取り巻く生活環境が大きく様変わりしている中、九州交響楽団では2021年度も自主・依頼公演を37公演中止したほか、お客さまの入場制限、さらには海外からの指揮者やソリストの来日中止に伴うプログラムの変更、公演時における感染対策の徹底など新型コロナ対策に振り回された一年だった。

このような厳しい状況の中、当楽団は、2022年4月で就任10年目を迎える小泉和裕音楽監督のもと、2022年度も福岡ならびに九州の音楽文化の向上を目指すオーケストラとして芸術性の高い作品や演奏機会の少ない作品にも意欲的に取り組んでいく。特に定期演奏会では、ポストコロナ、ウイズコロナを見通して、この2年の間、演奏が難しかったR. シュトラウスやマーラーの大曲などもプログラムに織り込んだ。

次世代を担う子どもたちに向けた演奏会も充実させている。具体的には、胎教と情操教育に繋がる「マタニティコンサート」の新設や映像と生演奏をシンクロさせてお届けする「サマーコンサート」など、親子で楽しめる楽曲や音楽の魅力を分かり易くお伝えする新しい企画を盛り込み、クラシック音楽のすそ野拡大と発展に努めていく。

また、2021年度から本格的に開始したライブ演奏配信についても、コンサート会場に來れない遠方の方や若年層ファンの獲得に向け、引き続き4公演を計画している。

以上のような方針により、2022年度の自主公演数は37公演と過去最多を予定している。

### (1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画して市民に幅広く告知・販売して公演を行うことにより、クラシック音楽の魅力を市民にお届けし、音楽文化の発展に寄与する公演である。

2022年度については、福岡市で31公演、北九州市で4公演、長崎市で1公演を実施する。

福岡市では、以下の31公演を実施する

- ① <定期演奏会> (10公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)
- ④ <第九公演> (1公演)
- ⑤ <ニューイヤーコンサート2023> (1公演)
- ⑥ <九響マタニティコンサート2022> (2公演)
- ⑦ <九響・スペシャルコンサート> (1公演)
- ⑧ <九響サマーコンサート2022「アニメ・コンチェルト」> (2公演)

- ⑨ <三大交響曲の夕べ> (1公演)
- ⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス万人コンサート)> (2公演)
- ⑪ <特別演奏会 九響×日本センチュリー響> (1公演)
- ⑫ <九響・春のこどもコンサート> (2公演)

① <定期演奏会 10公演>

<定期演奏会>は、地域における芸術文化の発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進に努める。初演作品や実演に触れる機会の少ない音楽作品などを積極的に取り込み、九州のクラシック界をリードする芸術性を重視したプログラムをお届けする。新型コロナ禍中ではあるが、アジアをはじめ世界各国から実力ある指揮者・ソリストの招聘に努める。

● 2022年度の特徴として

(i) 当団の主たる演奏会場であるアクロス福岡シンフォニーホール改修後のリニューアルオープンを記念し、(公財)アクロス福岡との共同主催でマーラーの大作、交響曲第2番「復活」の2日間公演を小泉和裕音楽監督の指揮で取り上げる。本公演は、ライブCD化も予定しており、過去、小泉=九響コンビのマーラー演奏として大好評を博したマーラー/交響曲第8番、第3番に続く合唱付き交響曲演奏の第3弾として、当団の演奏歴上、意義深い足跡を残す公演となることを目指す。(10月)

小泉音楽監督はその他、アルプスの印象を元にした気宇壮大な作品であるR.シュトラウス/アルプス交響曲と、オーケストラ演奏の基盤ともなるハイドン交響曲の組み合わせによるプログラムでオーケストラのビルドアップを図る。(4月)

また過去に殆ど取り上げてこなかった新ウイーン楽派の雄“シェーンベルク”にフォーカスして彼の作品を紹介する。(12月)

(ii) 国外から招聘予定の指揮者は招聘リスクを勘案して4名とした。クリスティアン・アルミンクは、日本国内のオーケストラでもタイトルを持つウイーン出身の俊英。世界各地で活躍しているマエストロが得意とするツェムリンスキー作品(当団初演)でその真価を問う。(7月)

3度目の共演となるアンドレア・バッティストーニは、上演頻度の低いヴェリズモオペラ「外套」(当団初演)を用意して登場、演奏会形式で作品の芸術的価値を存分に伝えるとともに、映画「道」の魅惑的なオーケストラ組曲との組み合わせでイタリアの魅力を十分に味わえる公演を行う。(8月)

九州の音楽ファンには既にお馴染み、シンガポール出身のカーチュン・ウォンは、バルトーク、ブルックナーの異なる世界観を、研ぎ澄まされた感性をもって表現する。(11月)

過去予定しながらも共演が叶わず今回が初の登場となるユベール・スターンは、王道ともいえるドイツロマン派2作品の真髓を伝える。(2月)

国内からの客演指揮者は2名、多くのファンからの支持も厚い藤岡幸夫は、愛してやまない  
ヴォーン・ウィリアムズの世界を生誕150年となる今年、満を持してお届けする。(5月)

シヨスタコーヴィチ作品演奏のスペシャリスト井上道義は、全て当団初演となる3作品でシ  
ヨスタコーヴィチ芸術の多面性をあますところなく表現する。(6月)

(iii) 多彩なソリスト陣との共演も予定している。ピアニスト、チェ・ヒョンロクは、第7回仙台  
国際音楽コンクールの覇者で韓国出身。左手のみの演奏を想定して作曲されたラヴェルの名協  
奏曲で卓越したテクニックを披露。(5月) 世界が注目する若手ピアニストの一人、三浦謙司  
は、重厚なブラームス協奏曲の真髓を伝える。(2月) 今や人気、実力を兼ね備えたチェリス  
トとして脚光を浴びる佐藤晴真は、ドヴォルザークの傑作協奏曲で共演。(7月)

歌い手では半田美和子(5月)、安井陽子、福原寿美枝(10月)が、歌のパートを伴った交響曲  
で声量豊かな歌唱をお届けする。また、樋口達哉を始めとする7名の歌い手達がイタリアヴェ  
リズモオペラで魅力あふれる歌唱を披露する。地元の九響合唱団は、オフィシャルパートナー  
合唱団とともに2公演でその実力を発揮する。(8月、10月)

## ② <天神でクラシック 4公演>

<天神でクラシック>は、幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、各回、プログラム  
にテーマを設け、出演者の解説トークを交えることでクラシック音楽に馴染みのなかったお客さま  
にも生の演奏の魅力を実感していただく。FFGホールの特徴を考慮して小編成のオーケストラ作  
品の魅力を紹介する。

### ● 2022年度の特徴として

(i) 実力派マエストロ、渡邊一正が久しぶりに登場、大人気作品ヴィヴァルディ「四季」では、チェ  
ンバロ演奏も担い多才な一面をアピール、ロッシーニ作品では軽妙な魅力を存分に届ける。(5月)

前回の共演で好評を博した鈴木秀美が登場、特に古典派作品演奏には一家言を持つ鈴木氏が、今  
回はハイドンとメンデルスゾーンの名作で作品の本質に迫る。(7月)

幅広いレパートリーに定評のある大友直人がフランス音楽のエスプリを伝え、その粋な味わいを  
楽しむ。(10月)

モーツァルトの誕生日にお送りしているロングラン企画「続... モーツァルトをあなたに」で  
は、当団桂冠コンサートマスター豊嶋泰嗣がコンサートマスター&ソリストとしてモーツァルトの  
世界観を表現、人気音楽評論家、奥田佳道のいざないでモーツァルト芸術の愉悅に浸る。(1月)

(ii) 当団の実力をアピールするとともに、お客さまに一層の親近感を抱いていただくため、ソリスト  
に当団メンバーを多数起用する。

コンサートマスター 西本幸弘 (4月)、首席フルート奏者 大村友樹 (10月)、  
桂冠コンサートマスター 豊嶋泰嗣 (1月)

### ③ <名曲・午後のオーケストラ 4公演>

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、クラシック音楽の普及を目的に、子供からお年寄りまで来場しやすい休日の午後2時に開演し、馴染みのある名曲をお届けすることで、フルオーケストラの迫力や生の演奏の魅力を実感していただく。

#### ● 2022年度の特徴として

(i) 昨年度に続くコラボレーション企画として、ジャズピアニスト山下洋輔と和太鼓奏者林英哲を迎えて刺激あるステージをお届けする。現在の山下氏は、あらゆる音楽シーンで枚挙にいとまがない活動を展開中。今回は旧知の間柄である指揮者、茂木大輔氏と自家薬籠中の物とするラプソディ・イン・ブルーを披露する。茂木氏はオーボエ奏者としての永年の演奏家キャリアも活かしたアプローチでビゼー、ガーシュウィン、ドヴォルザークそれぞれの世界観を表現する。(5月)

今年70歳、世界的和太鼓奏者である林氏が披露する「飛天遊」は正に圧巻、岩村力の指揮で血沸き肉躍る熱いパフォーマンスを繰り広げる。岩村氏はその他馴染みのメロディーも多く含む日本人作曲家による名曲の数々を深い共感をもって表現する。(11月)

(ii) 色あせる事のない不朽の名曲を味わうラインナップとして、当団とも馴染みの深い現田茂夫がロシア作品をゴージャスなオーケストラサウンドでアピール、魅惑のメロディーと共に大迫力のステージを展開する。(9月)

前回、圧倒的な名演で聴衆を魅了した巨匠ヴァレリー・ポリャンスキーが再度登場、深い芸術性をもってベートヴェン、リムスキー＝コルサコフの本質に肉薄する音作りで会場を沸かす。(2月)

(iii) 招聘するソリストは前述の山下洋輔(5月)林英哲(11月)の他、注目を集める実力派若手ヴァイオリニスト辻彩奈(9月)と我が国に於けるピアノ界の第一人者小山実稚恵(11月)が大人気の名協奏曲を披露する。

### ④ <第九公演>

年末恒例の企画として定着している公演。小泉和裕音楽監督が実力派揃いのソリスト達、九響合唱団他地元合唱団と共に不朽の人間賛歌を高らかに歌い上げ、2022年を締めくくる。

### ⑤ <ニューイヤーコンサート 2023>

新年幕開けの公演、我が国を代表するマエストロの1人下野竜也と近年活躍のめざましい鈴木玲奈をソプラノソリストとして迎え、華やかに新年を祝う。今回はシュトラウスファミリー作品に加え2023年アニヴァーサリー作曲家の作品にもスポットを当てる。

⑥ <九響マタニティコンサート 2022> (2公演)

お腹の中の赤ちゃん、もちろんママとパパにも優しくオーケストラ音楽を味わっていただく新企画。普段コンサートに行きたくても行けないと思っらっしゃる方々にも是非お勧めしたい内容。近年幅広く活躍している指揮者辻博之を迎え、楽しい雰囲気ですコンサートを創る。

⑦ <九響/スペシャルコンサート> (1公演)

コンサート会員に会入いただいたお客さまだけをお招きしてお届けする特別な演奏会。指揮者を置かずにソロ・コンサートマスターの扇谷泰朋氏がリーダーシップを取り、メンバー一人ひとりの自発的なコミュニケーションによって音楽を作り上げていく異色のコンサート。

⑧ <九響サマーコンサート 2022「アニメ・コンチェルト」> (2公演)

2021年好評であった同企画を2022年も実施する。ステージ上スクリーンに映し出されたアニメキャラクターと一緒にオーケストラ演奏をファミリーで楽しむ企画。幅広いジャンルで活躍する指揮者竹本泰蔵、映像とのシンクロ演奏で多くの支持を得ているピアニスト CHIAKI を迎えて楽しい夏休みの一コマを演出する。

⑨ <三大交響曲の夕べ>

運命、未完成、新世界、大人気交響曲を一挙にお届けする企画、今回は鈴木優人を指揮者として迎える。鈴木氏は幅広いフィールドでの活躍が全国的に注目され九州内に於いても当団のみならず九大フィルハーモニーとも深い関わりをもち、多くのファンを獲得しているアーティストである。

⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス万人コンサート)> (2公演)

本公演は、アクロス福岡が青少年を対象として企画しているコンサート。2021年度はコロナ禍で中止したが、2022年度はアクロスと協力し、共催事業として復活開催する。

⑪ <特別演奏会 九響×日本センチュリー響> (1公演)

日本センチュリー交響楽団は、大阪に拠点を置き、高い実力で地域に密着した活動を展開する我が国有数のオーケストラ。今回、2つのオーケストラが合同で一つの大オーケストラを編成し、多くの演奏者を必要とするストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」他を演奏する。それぞれのオーケストラメンバーが刺激、調和し合い、近年では指揮者としての活躍も著しい久石譲がまとめ上げるスペシャルな企画。

## ⑫ <九響・春のこどもコンサート> (2公演)

親子でゴージャスなオーケストラサウンドを体感、そしてより身近にオーケストラを感じていただける演出を施す。オペラの世界でも評価の高い柴田真郁が指揮台に上がり、歌のおねえさん西けいこが歌と司会で会場を楽しく盛り上げる。

### 北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

- ① <北九州定期演奏会> (2公演)
- ② <第九公演> (1公演)
- ③ <ニューイヤーコンサート2023> (1公演)

#### ① <北九州定期演奏会 2公演>

4月公演は言わずと知れたヴィヴァルディの四季と軽妙洒脱なロッシーニの序曲をプログラミング。小編成オーケストラの魅力を十分にお伝え出来る響ホールで開催する。指揮の渡邊一正はチェンバロ演奏も披露、ヴァイオリンソロは当団コンサートマスター西本幸弘が担う。9月公演は馴染み深い現田茂夫が登場、北九州芸術劇場にてフル編成オーケストラならではのゴージャスな響きをお届けする。ソリストとして北九州出身注目の若手ピアニスト谷昂登がチャイコフスキーの大人気協奏曲を披露する。

#### ② <第九公演>

福岡公演と同じく小泉音楽監督のタクトで実力派シンガー達のソロと北九州市民フロイデコールと共に年末の風物詩となったコンサートをお届けする。

#### ③ <ニューイヤーコンサート2023>

福岡公演と同じく下野竜也の指揮、鈴木玲奈のソプラノソロ、華やかな演出で新年を祝う。恒例のシュトラウスファミリー作品に加え、2023年アニヴァーサリー作曲家の作品も取り上げる。

### 長崎市では、以下の1公演を実施する

#### ① <九州交響楽団・長崎公演>

オーケストラの魅力を九州各地域に伝え文化レベル向上の一助になるべく、初めての長崎主催公演を開催する。活躍のフィールドを広げている注目の若手アーティスト、角田鋼亮(指揮)と中村太地(ヴァイオリン)を迎え、一般的に人気の高い作品をプログラミング。長崎地区のオーケストラファン、音楽ファン拡充に努める。

## (2) 依頼公演

依頼公演は、＜主催公演＞以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートであり、九響にとって大切な収入源である。しかしながら2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により「福岡県市町村振興協会」主催の「中学生の未来に贈るコンサート」が、50公演中30公演中止になるなど、当初計画していた公演の約半数が中止となったため、事業収入を大きく棄損することとなった。2022年度の依頼公演については、「中学生の未来に贈るコンサート」が2021年度から始まった新たな契約（3年間）の2年目として52公演を実施するほか、全依頼公演は96公演を予定している。

2022年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」に採択されたことにより、10月に4公演を北部九州エリアで実施する。

コロナ禍の中、依頼公演の受注が難しい状況ではあるが、公演依頼先からお声掛け頂いた場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏も実施する。この《室内楽》も＜依頼公演＞に含まれる。

---

前述、＜主催公演＞、＜依頼公演＞は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

### [1] 定期演奏会（12公演：福岡市10公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜定期演奏会＞（10公演）

北九州市での

＜定期演奏会＞（2公演）

### [2] 巡回演奏会（12公演：福岡市10公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜天神でクラシック＞（4公演）

＜名曲・午後のオーケストラ＞（4公演）

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤーコンサート2023＞（1公演）

北九州市での

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤーコンサート2023＞（1公演）

### [3] 特別演奏会 (12 公演)

#### 福岡市での

<九響マタニティコンサート 2022> (2 公演)

<九響/スペシャルコンサート> (1 公演)

<九響サマーコンサート 2022「アニメ・コンチェルト」> (2 公演)

<三大交響曲の夕べ> (1 公演)

<舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス一万人コンサート)> (2 公演)

<特別演奏会 九響×日本センチュリー響> (1 公演)

<九響・春のこどもコンサート> (2 公演)

#### 長崎市での

<九州交響楽団・長崎公演> (1 公演)

### [4] 移動音楽教室 (1 公演)

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する<依頼公演>の一つであるが、  
《移動音楽教室》として分類している。

### [5] 依頼演奏会 (126 公演 : オーケストラ公演 : 96 公演、室内楽演奏 : 30 公演)



<参考> 公演数一覧

	2022年度計画	2021年度計画	2021年度実績(見込)	計画増減
定期演奏会	12回	11回	11回	1回増 <sup>※1</sup>
巡回演奏会	12回	12回	12回	増減なし
特別演奏会	12回	7回	6回	5回増 <sup>※2</sup>
移動音楽教室	1回	1回	1回	増減なし
依頼演奏会	96回	97回	61回	1回減 <sup>※3</sup>
合計	133回	128回	91回	5回増

※1 第407回定期演奏会(10/7、8)2回開催

※2 マタニティコンサート(2回)、長崎公演、特別演奏会、春のこどもコンサート(1回)増

※3 依頼演奏会1回減、町村会2回増、文化庁2回減

<参考> 2021年度公演

	計画	実績(見込み)	増減内訳
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	増減なし
特別演奏会	7回	6回	・アクロス一万人：2回減 ・春こども：1回増
移動音楽教室	1回	1回	増減なし
依頼演奏会	97回	61回	・依頼演奏会：13回減 ・中学生公演：30回減 ・文化庁公演：7回増
合計	128回	91回	37回減